

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年4月30日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■重点支援対象者 法人化に向けた協議

4月16日、農業経営者法人等総合サポート事業による専門家派遣を活用して司法書士を招き、経営改善を目指す生産者を支援した。

当生産者は、関市内で土地利用型農業を営んでおり、令和6年度中の法人化を目指している。

当日は、定款の作成ポイントや今後の手順等について指導を受け、今後はより具体的な計画作成などに取組むこととなる。

農業普及課では引き続き、ぎふアグリチャレンジ支援センターなどの関係機関との連携を進め、法人化に向けた経営支援をしていく。

(地域支援係)



【支援会議】

■円空さといも 新規組合加入者説明会

4月22日、今年から円空さといも生産組合に加入希望のある方々に対し説明会が開催され、4名が出席した。

J Aめぐみのから、円空さといも生産組合の概要や出荷等の注意点を、組合長からは栽培のポイントなどについて説明した。農業普及課からは、特に農薬の適正使用や病虫害防除について指導を行った。

出席者らは、さといも栽培への理解を深め、高品質・高収量を目指した栽培に向けて作業手順の再確認を行っていた。

農業普及課は、現地での作業開始とともに新規栽培者を中心に栽培指導を展開し、産地支援を継続していく。

(地域支援係)



【新規加入者説明会】

■J Aめぐみの就農塾 就農塾開講式

4月18日、J Aめぐみの本店にて、令和6年度就農塾開講式及び講座ガイダンスが開催されたため出席した。

就農塾は、J Aめぐみの主催で、主要な農産物の栽培技術及び農業経営の基礎知識を身につけ、新規栽培者として農産物の生産に取り組んでもらうことを目的としている。

今年度は、16名の受講生がさといも・なす・栗の各コースに分かれ、年間10回ほど受講する。研修後は就農し、生産組合への加入や直売所への出荷をめざす予定である。

農業普及課は、J Aめぐみのとも連携分担し、各コースの講師として指導するとともに、就農塾の開催と就農を支援していく。

(地域支援係)



【講義の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■トマト スマート農業（統合環境制御システム）の活用指導

冬春トマト生産者において、統合環境制御等のスマート農業機器が導入されており、栽培技術とともにその活用について指導が求められている。

今春の高温傾向の下で、統合環境制御機器を導入し自動設定によるハウス環境制御を実施しているトマト生産者において、トマトが萎れる事案が発生し相談があった。

農業普及課では、トマトの状況や記録されていた温湿度などのハウス環境データより、自動設定のみでは急激な環境変化を抑えることが困難であると考え、手動により遮光カーテンの展張時間を早めるよう指導した。

導入した機器の性能が的確に発揮され、自動化の下での適切な栽培環境が実現されるよう、情報収集等を継続しながら、統合環境制御機器の活用に向けて支援していく。

（地域支援係）



【モニタリングデータを確認】

地域資源を活かした農村づくり

■円空さといも 瀬尻小学校総合学習支援（さといも栽培による食育活動）

4月11日、関市立瀬尻小学校において、さといもの種いもの植え付け授業が行われた。これは、毎年、同校の3年生が総合的な学習の時間を利用して、地域の特産品である円空さといもの学習を行っている一環で実施された。

当日は約50名の児童が参加し、地域の生産者やJAめぐみの、農業普及課が講師となり、さといもの栽培の歴史や栽培方法を説明し、植え付けの実演を行った。

初めてさといもの種いものを植え付けた児童らは、植え付ける種いもの向きや適切な穴の深さに戸惑っていたものの、全員が無事植え付けることができた。終了後には、「早く芽が出てほしい」、「秋に収穫するのが楽しみ」などの声が聞かれた。

今後、ダツかきや収穫体験、選果場見学なども計画されており、関係機関とともに地場特産野菜の生産や消費に対する理解醸成のため、食育活動を展開する。

（地域支援係）



【植え付け作業の様子】